

## V133a 広帯域受信電波望遠鏡（パラボラアンテナ）の開発（3）

福崎順洋（国土交通省国土地理院）

国土地理院では、1981年より、測地目的のVLBI観測を継続して行っている。

現在、つくば32m、父島10m、始良10mアンテナ（電波望遠鏡）の3つの固定観測局を有するVLBI観測網を用いて、定期的なVLBI観測を行っている。特に、つくば32m電波望遠鏡は、測地目的のみならず、天文目的のVLBI観測にも参加している。

そして、2011年には、国際VLBI事業（IVS）が次世代VLBI観測システムとして推奨しているVGOS（VLBI Global Observing System：「VLBI2010」から改名）規格に対応する新しい観測施設を建設するプロジェクトを開始した。

このVGOSでは、2G～14GHzという広帯域受信（比帯域1.5）を規定しており、今回、その周波数帯にわたり高い受信性能（高い開口効率と低いシステム雑音温度）を有する、口径13.2mの反射鏡型電波望遠鏡（パラボラアンテナ）が完成した。

本発表では、この広帯域受信電波望遠鏡の受信性能試験について、初期測定結果を報告する。